

編集後記

横浜高等商業学校創立から100周年を迎える2023年の9月に100周年事業の一環として『横浜国立大学社会科学系部局百年史』（以下、『百年史』）の編集作業が始まった。この作業は当初伊集守直を委員長として高橋賢、志賀裕朗、石山幸彦の4名からなる編集委員会によって開始され、2024年4月に経済学部長に就任した伊集に代わり石山が委員長を引き継ぎ、残った3名の委員が作業を継続することになった。同窓会である富丘会など卒業生のみなさん、関係事務職員、社会科学系の退職教員や現職教員など多くの方々の協力を得て、着手から1年半余りを経て『百年史』は完成した。まずはこの場を借りて、原稿の執筆や編集作業にご協力くださったみなさんにお礼を申し上げる。また、この編集過程で複数項目の原稿を執筆した現職教員の森田洋が急逝したことは、誠に残念であった。

この『百年史』を作成するにあたっては、百年史関連事業全体を計画した当初から次のような点が確認されていた。まず、近年では一般企業などでも社史を編纂する際に冊子体で発行することは少なく、WEB上で公開することが一般的になっている。したがって、『百年史』も基本的にWEB上で公開することとし、従来の冊子体よりもコンパクトで視覚的に閲覧しやすいものを作成する。以上のような基本方針をもとにこの『百年史』は作成されているが、『横浜国立大学社会科学系部局八十年史』、『同五十年史』や『同二十年史』も横浜国立大学大学院国際社会科学研究院ホームページから閲覧可能であり、あわせてご覧いただくことをお勧めする。

今回この『百年史』の編集作業を引受けるにあたって、私がこの組織とかかわり始めたのが40年以上も前であり、その期間が社会科学系部局100年のうち相当大きな割合を占めていたことに改めて気づかれ、少し驚いている。このように長い間、私は社会科学系部局で過ごしてきたのだが、この組織に対するイメージは一言で言い表すことができないことにも気がついた。なぜなら、多くの具体的な出来事の一つ一つが思い出され、私がつまみイメージは多様であるからだ。それぞれに見えた景色や関わった人たちは異なっており、楽しかったこともそうでなかったこともある。実際の学内の風景や印象も私が初めて来校した当時はキャンパスが常盤台に移転して5～6年経過した頃で、現在とは大分異なっていた。学内の樹木は人の背丈より少し高い程度で、現在の鬱蒼とした感じとは見違えるほどだったし、建物もはるかに少なく空が広く見えたものである。

この『百年史』に寄せていただいたみなさんの原稿を読んでも、同じようなことを感じて嬉しくなった。第1章、第2章の社会科学系部局の組織運営に関する文章からは、それぞれの組織の新設や改編、プロジェクトの運営に関わった方々の意気込みが感じられ、この部局が歩んできた道をたどることができる。だが、そこから読み取れるイメージや風景は多様であり、様々な側面をみることができる。さらに、第3章に寄せていただいた卒業生や元教員、現教員のみなさんの原稿は、個人個人が体験した本学での思い出であり、まさに多様な個人のイメージが投影されている。古くは1970年代以前の清水ヶ丘時代から21世紀も20年以上経過した今日まで、国内外の様々な場所から集まった人々が

それぞれの立場で体験した思い出が綴られている。そこには私がほとんど知らなかった社会科学系部局の多様な側面をみることができ、数多くの思いがけない発見があり楽しく読ませていただいた。

以上のように、社会科学系部局に教職員として所属した方も学生として在籍された方も、この部局に対するイメージは十人十色であり、短い言葉で言い表すことはできない。その一つ一つが紛れもないこの部局の本当の姿である。読者のみなさんもそれぞれに本学や社会科学系部局のイメージを持っておられることと思うが、この『百年史』から未知の側面を発見し、イメージをより豊かにして楽しんでいただければと願っている。

「横浜国立大学 社会科学系部局 百年史」編集委員会
委員長 石山 幸彦

横浜国立大学 社会科学系部局 百年史 *1923-2023*

2025 年 3 月 31 日 発行

発行・編集

「横浜国立大学 社会科学系部局 百年史」編集委員会

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79 番 4 号

TEL 045-339-3605 FAX 045-339-3661

URL <https://www.ynu.ac.jp>



YNU

田尻常雄先生の像

横浜国立大学
社会科学系部局
百年史 *1923 - 2023*